

～人生は誰しも戦、勝ち旗は自分で掲げる～

東秩父村から後世へ受け継ぐべき偉人の歴史をご紹介します。今を生きる人へ、自分たちの今の暮らしを作ってくれた「善き戦を戦われた」方たちを知ってください。

東秩父を戦場とした偉人たちへ、その栄光をたたえて。

# 偉人たちの戦



## —高田群次郎氏—

前回、高田群次郎氏の生涯について軽く触れてみましたが、皆さんにとってどのように感じましたか？明治から昭和を経て戦争の時代を生き抜いた群次郎氏は、今の便利な世の中でなくとも、公平・公正で村民が有益となるような政治を行っていました。第2回の今回は、高田群次郎氏の時代に行った「時代に沿った、時代以上の政治」をご紹介しますと思います。

### 第2章 高田群次郎氏の功績

#### 1. 東秩父に伝わる「防火線づくり」の功績

村長の職に就くと間もなく、着々と国有林の払い下げを受け、村有林として開拓を進めた群次郎氏は、植樹緑と清流の治山治水（植樹や川の整備により氾濫を防ぎ、水の流れを整えること）に精魂費やしたようです。そして、昭和6年に山林保護のため防火線（林の内側等から可燃物を取り除くとともに、地表を掻き起して火災時の風向きと直角に設ける空間地帯）を設定、頂上に防火の神愛宕神社を祭りしました。この事業は、山林を火事から守る目的と、失業した人々への救済、つまり仕事のない人へ雇用の場をつくるという目的も併せ持っていました。

#### 2. 村政方針である、村是五綱領の制定（明治39年）

##### (1) 自治の振興

群次郎氏は、区長との会議を密にし、槻川村民と協同の村づくりを行っていました。新年度が始まって早々、重点施策を区長に説明し、村民の理解と協力を

求めるために奮闘されていたようです。また、税金（所得税）を徴収するとき、明治時代は個々の所得に不明瞭な点が多々あったことと思えますが、所得額決定の際は区長会議を開き、原案を示して意見を聞くなど、村民の声を大切にしました。そういった聴取を経て、自治の振興を図っていたのです。

##### (2) 民力の充実

当時、「農村の自立更生」を目指した動きが活発でした。救済のために盛んに公共事業を行い、交通状況は見る見るうちに発展していきます。その新設または改修された道路を使い、民力の充実が図られたのです。群次郎氏は行政として、村有林を地区単位に開放し、希望者に桑園を造成して蚕業の奨励を行いました。また、多くの作物の競争を提案するなどをして「民力」を高めていったのです。

その施策のなかで、がけ崩れ防止のため村民全員にアカシアの苗を配ったことも記されています。

います。「あたり一面にアカシアの咲く村」、きれいだったことは間違いないでしょう。

##### (3) 教育の振興

槻川沿いは梅の老樹が多かったそうです。「梅干しは胃酸過多や視力の保全に良い」といった理由からだそうです。そういった教育の振興も、昔ながらの面白い考えだと思いませんか？その他にも、図書館の創設と読書発表会の開催、小学校にピアノ購入などをし、よりよい学校生活を子どもたちが送れるように努めました。

##### (4) 保健の増進

今、本村が悩まされている「無医村」は群次郎氏の時代も同じでした。そこで、大正12年に群次郎氏は折原村（今の寄居町）より医師を招き「槻川診療所」を開

設して、その問題を解消しました。また、体力のすぐれない子どもに対し、学校で山羊を飼って乳をのませるといった健康増進方法も行っていました。

##### (5) 民風の作興

今ではおなじみとなった「敬老会」の開催もこの時から始まりました。お年寄りを敬うことを村民の心に根付かせたのです。また、季節の楽しみ「七夕」や「正月」には役場前に飾りつけをし、「民族的行事には生活に情緒やロマンをくれる」と、その季節ならではの風習を大切にされていました。

次号では、高田群次郎氏を語るうえで切っても切り離せない「群次郎氏と宗教との関わり」についてご紹介します。



▶ロマンや情熱といった心情が滲み出る政治を好んだ高田群次郎氏